

PCN Reports をよろしく

木下 利彦 Toshihiko Kinoshita
日本精神神経学会理事

2022年(第124巻)の第3号の巻頭言で鈴木道雄理事から紹介のあった「Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports (PCN Reports)」が、順調に投稿数を伸ばし成長しております。Editor-in-Chiefの1人として大変嬉しく思っておりますとともに、会員の皆様の力強いサポートのお陰であると感謝申し上げる次第です。鈴木理事から紹介がありましたが、PCN ReportsはPCNの姉妹誌であり、オープンアクセスの完全オンラインジャーナルであります。PCNのインパクトファクター(impact factor: IF)が10を超え、論文の格は上がったのですが、会員にとっては少し敷居が高くなってしまったので、手軽に投稿できる英文誌をもう1つ作る必要性が出て創刊に至ったという経緯であります。

具体的な投稿状況をご報告申し上げます。2022年の投稿論文総数は107編のうち本邦からの投稿は97編であります。われわれの想定をはるかに超える投稿数でした。論文タイプはOriginal Articleが最も多く、次いでCase Report, Research Letter, Reviewの順でありました。採択率は75%でした。分野別では、Social Psychiatry and Epidemiologyが最も多く、次にGeneral Topics in Psychiatry and Related Fields, Neuropsychopharmacology, Clinical Neurophysiology and Neuropsychology, Infant-Child and Adolescent Psychiatryが続きました。逆にNeuroimagingやMolecular Psychiatry and Psychobiologyの分野が非常

に少なかったです。査読に回った論文の最初の審査結果に至るまでの日数は43日とやや長めであり、受理に至るまでの日数は95日でありました。スムーズに査読を進めたのですが、これはどの雑誌においても共通の問題ではありますが、査読者の選定に非常に時間がかかっております。Field Editor (FE)が査読をお願いしてもなかなかお引き受け頂けず、いろいろな方をお願いするものの、結果的にはFEの関係者に受けて頂くような事態が頻発しております。どうぞ会員の皆様、FEからの査読依頼がありましたら、積極的に受けて頂きますようお願い申し上げます。

オープンアクセスジャーナルは掲載料(article publication charge: APC)が高額にならざるを得ないのですが、本誌も会員:2,000USD、非会員:2,500USDと高額ですが、学会員が投稿する場合はAPCを学会が負担しております(今のところ2,3年程度の時限方針です)。質・量ともに想定を超えるスピードで進んでおりますので、2023年の目標はPubMed Central (PMC)に掲載されることでもあります。さらに来年にはIFの獲得がみえて参ります。現在の投稿数を維持すればIF \geq 2が達成できるのではないかと期待しております。英文による投稿の機会の少ない精神病理学や心理学などの領域の論文も積極的に受け付けておりますので、この機会にどしどし投稿をお願い申し上げます。会員諸氏には、PCN Reportsを期待をもって大きく育てて頂きたいと祈念して筆を擱きたいと思っております。